

■After 建築名称 下段: 英語名	スカラ座 Teatro alla Scala		
建築用途	大分類 集会施設	小分類 劇場	
改修設計者	Mario Botta, Elisabetta Fabbri		URL
所在地	イタリア、ミラノ		Google Map
改修年	2004		撮影者提供者 柳沢伸也 (2004年)
建築規模			概要 after ミラノの歴史的シンボルをスイス人の現代建築家マリオ・ボッタが改修。開設当初の復元と機能的な拡張が行われ、既存建物に四角いフライトワーと楕円状のヴォリュームが増築された。
掲載書誌	『イタリアの歴史的劇場』大月淳, 2009年		
賞・選定			
■Before 建築名称	スカラ座		概要 before ジュゼッペ・ピエルマリーニの設計により1778年8月3日オープン。アントニオ・サリエリ、ヴェルディ、トスカニーニ、マリアカラス等のスターの名が刻まれて「オペラの殿堂」といわれる歴史的文化的施設。
建築用途	大分類 集会施設	小分類 劇場	
■写真 Before	拡張された部分(点線が既存部分)	After 絨毯やクロス等、建設当時に忠実に再現されたボックス席	After 舞台脇に大きな奈落(H=17m)が掘られる
			
撮影者提供者 柳沢伸也	撮影者提供者 柳沢伸也 (2004年)	撮影者提供者 柳沢伸也 (2004年)	
■リノベーション内容	キーワード 大規模改修、外観保存、増築、対比	内容 検討期間を含めて約10年かけた大改修。改修設計はプロポーザル方式で選定され、改修の方針と様子は市民に情報開示された。設計監理については、改修と新築部分それぞれの得意分野のトップを2人立てて担当させた。新築部分において、材料を大聖堂と同じ大理石を採用するなど歴史の継承を配慮している。改修にあたり、歴史的保全地区の景観保全を重視し、前面のスカラ広場からの視線の延長線を越えない範囲で増築部分が計画されている。客席や舞台まわりなど主要部分は、歴史的調査・検証を徹底的に行い建築当初に復元を行った。既存の小劇場は、防災避難上の理由から解体撤去され、オペラの舞台装置や空調システムなど、機性能、環境性能を大幅に改善した。舞台脇には、深さ約17メートルの奈落を掘り、2幕分の舞台装置を収納することができるように改修されている。	
■備考	イタリアの改修の中では、改造の度合いが高い「intervento介入」の位置づけ。		
■作成者氏名/所属	柳沢伸也 / JIA再生部会		管理者記載 SY-014